

# 2017 高原沼情報

NO. 1

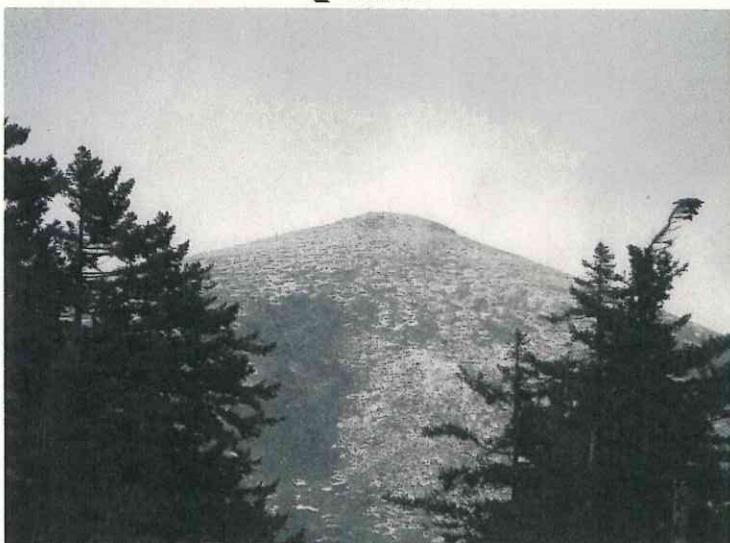
第8号（10月2日）  
発行：ヒグマ情報センター

## 沼巡りコースの入山規制について

入山受付 7:00～13:00、下山時間 15:00までです。  
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで **入山届け** を記入し、**レクチャー** を受けてから入山してください。  
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①紅葉の終わった緑沼です。朝日があたり、ヌマハリイが  
黄金色に輝いていました。(10月2日)



②緑沼から緑岳の初冠雪を観測しました。僕らの密かな楽しみです。コースから緑岳が白くなっているのを見ることが記録になります。(9月29日)



③雪が降り、色付く前に落ちてしまったウラジロナナカマドです。(9月30日)



④高原ピーク、ヒグマの監視岩からも木々の葉が落ち、大学沼も見えるようになりました。ダケカンバも白骨を見せ、晩秋から初冬の景色が郷愁を説いています。(9月30日)



⑤この素晴らしい景色にそぐわない飛行物体、異様な存在です。ドローンが普及てきて使用する人も出てきています。許可証があってもドローンはこの景色には異物です。(9月17日)



⑥音更山、石狩岳も雪化粧です。(9月30日)



⑦バイカモのある小沢に落ち葉と共にオニヤンマの亡骸がありました。共に山に帰り、また新たな生命を育んでいくのでしょう。(9月30日)



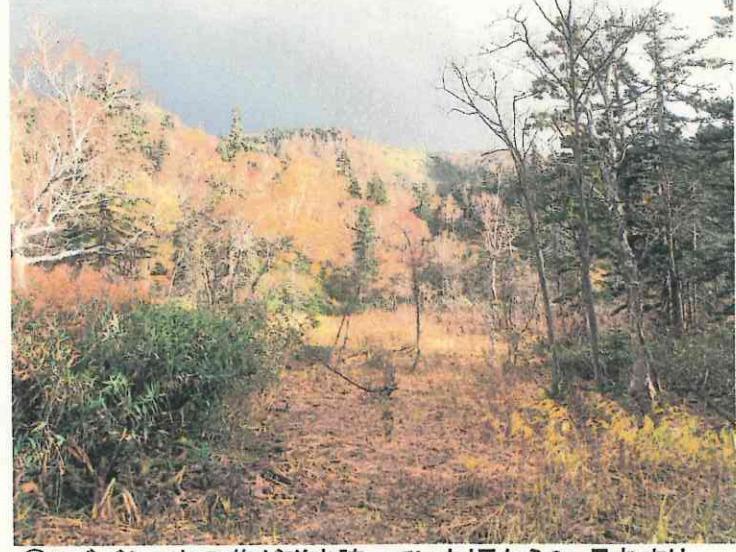
⑧高原沼対岸からの景色です。ヒグマたちが過ごした高根ヶ原東斜面が望めます。この景色も来年までさようならです。(9月17日)



⑨空沼から見た立岩です。高原沼から見ると尖った小山に見えますが、ここからは盾のようです。由来はかつて沼コースを開拓し、高原温泉ヒュッテを営んでいた立岩吉松氏です。(9月30日)



⑩積雪があった空沼です。マイカー規制時には紅葉はすでに終わりかけでしたが、台風の雨で水が張っていました。空沼に水があると聞くと、見に行く人が多かったです。(9月30日)



⑪ミズバショウの花が咲き誇っていた頃から3ヶ月あまり、晩秋を迎える間もなく高原温泉は冬の眠りに入ります。沼コースは10月9日が最終日になります。(10月2日)

# 2017 高原沼情報

NO. 1

第7号（9月18日）  
発行：ヒグマ情報センター

## 沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00～13:00、下山時間15:00までです。  
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで**入山届け**を記入  
し、**レクチャー**を受けてから入山してください。  
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①地元上川小学校の3、4年生が遠足で沼巡りコースを訪れました。ぱっとしない天気でしたが、みんな元気で大学沼に着くなり、「先生、弁当食べいい?」との声が上がりました。子供たちより、先生方がぱてていました。(9月15日)



②土俵沼です。夏にヒグマが草を食べていた奥の斜面の草地も、草が枯れ、紅葉した木々に縁取られています。(9月16日)



③涙を流す人もいる滝見沼は紅葉の見頃です。凧いだ水面に映る紅葉は感動を倍増させてくれます。(9月17日)



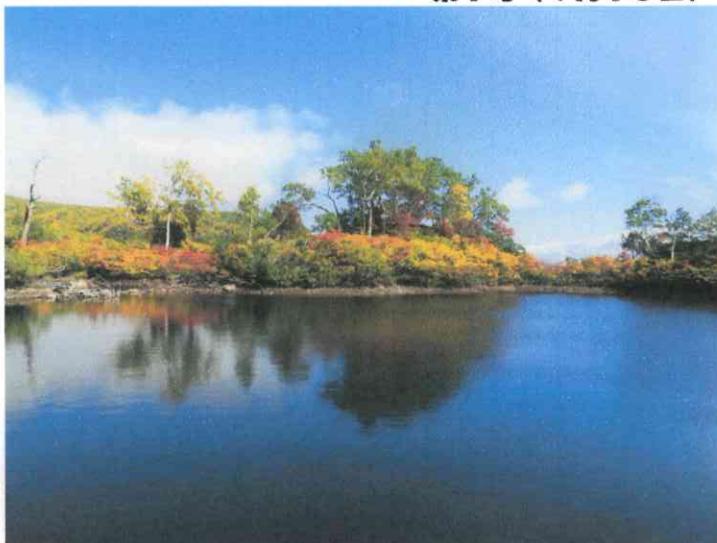
④チシマミクリが浮かぶ水面に紅葉が映るバショウ沼です。バショウ沼もきれいに色が付きました。(9月17日)



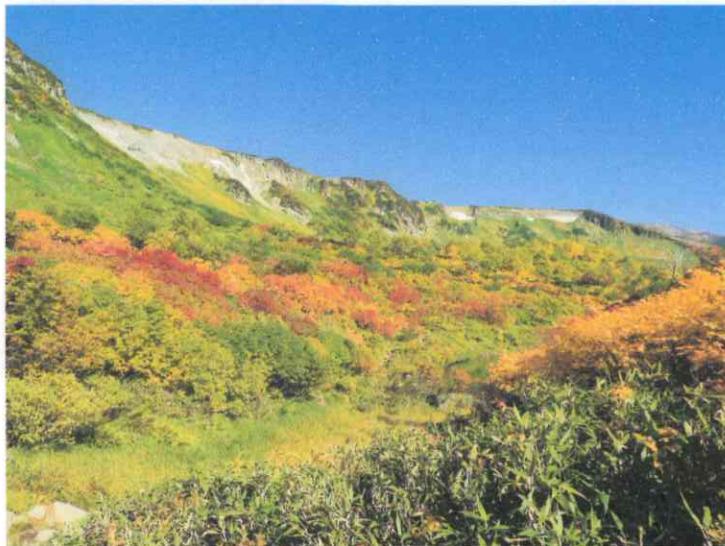
⑤緑沼は16、17日と紅葉のピークを迎みました。登山者たちは「帰りたくない。」と紅葉狩りを堪能していました。(9月16日)



⑥鴨沼の次の沼、耳沼にある岩の上にハイオトギリが群生しています。小さな草木たちも紅葉しています。小さなものにも目を向けると世界が広がります。(9月16日)



⑦エゾ沼は6割くらいの色づきでしょうか。エゾ沼の歩道は人一人しか通れないほど狭く、地盤ももろいために、通行には注意してください。混雑時には譲り合いをお願いします。(9月17日)



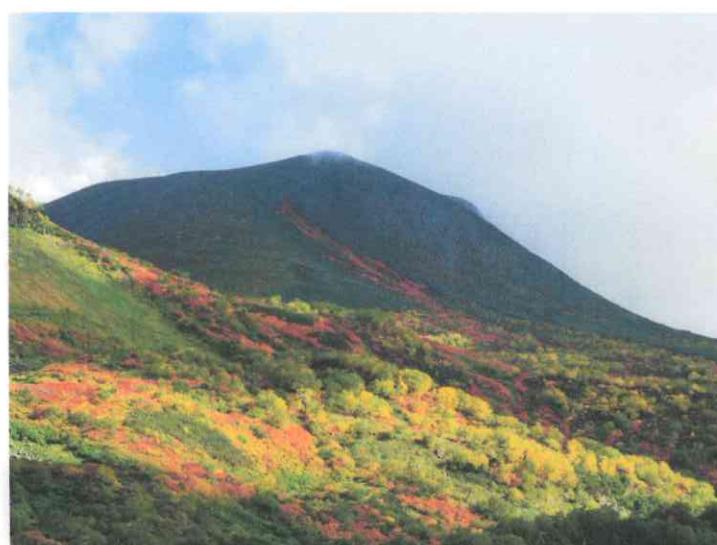
⑧式部沼です。エゾ沼、式部沼は8月下旬の冷え込みの後、紅葉の進行が足踏みしたせいか、まだら模様の紅葉です。(9月17日)



⑨毎年色付きに差が出る大学沼ですが、皆さん紅葉を楽しみ、弁当を広げています。高原沼方面から見下ろす風景もきれいです。(9月16日)



⑩初霜が降りたこの日も沼巡りコースは多くの人で賑わいました。高原沼に着く直前には綠岳方面の紅葉が目に入り、歓声が沸いていました。(9月17日)



⑪高原沼9月21日から10月1日まで高原温泉のマイカー規制が行われます。紅葉が見頃になった沼巡りコース、台風18号の影響があまりありませんように。(9月16日)

# 2017 高原沼情報

NO. 1  
第6号(9月4日)  
発行:ヒグマ情報センター

## 沼巡りコースの入山規制について

入山受付 7:00~13:00、下山時間 15:00までです。  
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで **入山届け** を記入し、**レクチャー** を受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



②滝見沼も紅葉の始まりです。まだまだ、ピークにはほど遠いですが、今後の気温の変動により、早くもなるし、遅くもあります。紅葉の見頃は何時ですかと良く聞かれますが、予想するのは難しいものなのです。(9月3日)



①白雲岳周辺のウラシマツツジの紅葉は8月30日にピークを迎えたそうです。沼コースから見る緑岳、風衝地の紅葉は真っ赤になり、緑岳のタスキのウラジロナナカマドも3割から4割の色づきです。(9月3日)



③高原沼からの大学沼の眺めです。大学沼も色付き始めています。また、高原沼からの雪壁沢方面は真っ赤になつたウラジロナナカマドも見られます。(9月3日)



④ハクサンボウフウに変わり、シラネニンジンが咲いています。一つの株で蕾、花、実が見られるものもありました。ヒグマの好むセリ科の植物です。(8月30日)



⑤真上から見るとSF映画に出てきそうな戦闘機にも見えるエゾオヤマノリンゴウです。この花の中に潜り込む、マルハナバチ達も観察できます。(8月30日)



⑥キツツキの仲間は秋になると目立ちます。アカゲラが枯れ木の幹を乱暴にむしっていました。カラ類に混じったコゲラも見られます。クマゲラも見ますが、いつもより目撃は少ないです。(9月3日)



⑦キアゲハの終齢幼生です。突ついたらオレンジ色の臭角をだして威嚇してきました。この幼虫も間もなく蛹になり、長い冬を堪え忍び乗り越えます。(8月25日)



⑧大学沼の対岸のナキウサギです。高原ピークでも見られていたナキウサギがいなくなりました。今年は近くでナキウサギを見ることが出来ません。いったい何が起こったのでしょうか?(9月2日)



⑨高原沼ではウメバチソウが見頃です。花の季節も終わりかけの今、雪解けの遅かった場所で実を残すべく、天に向かって花を咲かせています。(9月2日)



⑩ヒグマの動向も気にし、微力ながら毎日資材をかつぎ、登山道整備を始めました。一昨年、募金をしてくれた人達に感謝をしています。満足のいく形になるかどうか分かりませんが、少しずつ進めていきます。(9月2日)



⑪斜面で草を食べながら下方に見えなくなり、その後、姿を現さなかったのでセンサーハンディカムに写るのではと予想していたら、案の定、写っていました。現在、唯一姿を見せてくれるヒグマ親子ですが、もうそろそろ木の実を求めて移動するのでしょうか。(9月3日)

015°C

C

09-03-2017 13:38:55

# 2017 高原沼情報

NO. 1  
第5号（8月21日）  
発行：ヒグマ情報センター

## 沼巡りコースの入山規制について

入山受付 7:00～13:00、下山時間 15:00までです。  
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで **入山届け** を記入し、**レクチャーを受けて** から入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真的位置



現在、沼巡りは  
高原沼往復です



②チシマミクリです。緑沼脇の小さな池でひっそりと花を咲かせています。ミクリが好きという人に出会いました。ミクリは数が減っているそうです。沼コースではミクリの花はここでしか見られません。(8月20日)



④緑沼にエゾシカの親子です。愛らしい姿です。シカが高山植物を食べるとかで悪者扱いされなければならないのは、なぜでしょうか。人は何を求めているのでしょうか。(8月10日)



①大学沼対岸の草地に現れた親子グマです。子2頭が立ち上がり、奥の方を見ています。そこにはカラス4羽が残雪に降り立ちました。カラスに反応し、子グマが脱兎のごとく走り出し、親もそれにつられて姿を消しました。(8月14日)



③バショウ沼を彩る水草です。花は見られませんが、これもチシマミクリでしょうか。分かる人がいたら教えてください。水面を飾る、自然が作る素晴らしい模様の素晴らしさに、ため息が出ます。(8月20日)



⑤高原ピークからの眺めです。遠望するウラジロナナカマドは色付き始めたようです。このまま、まっしぐらに紅葉の季節に突入するのでしょうか。(8月20日)



⑥大学沼への訪問者です。コースで見かけるキタキツネの糞にクロウスゴが混ざるようになってきました。ヒグマの糞と間違えないように!。(8月18日)



⑦だいぶ、開花が遅れているダイセツトリカブトです。いつもなら湯の沼過ぎの歩道をチシマノキンバイソウと歩道脇を彩るのですが、トリカブトはまだ、豆粒くらいの蕾のものが大半です。(8月20日)



⑧「オジロワシ飛来」幼鳥のようで、この辺りでも繁殖しているのでしょうか。このコースで確認されたのは昨年の夏以来、2度目です。(8月17日)



⑨8時32分にクマが歩道を歩くこともあります。緑沼から少し上がった場所の沢に設置したセンサーcameraの写真です。歩道を歩いて、この沢に来ていました。(8月14日)



⑩大学沼から見るコウモリ雪渓は、その名のごとくハッキリと「バットマンマーク」になりました。これから、紅葉期になるまでの静かで穏やかな時間が過ごせます。(8月20日)



⑪「ヒグマ回顧録(2011年8月18日)」コウモリ雪渓に同頭のクマが乗りました。亞成獣が3頭(兄弟グマとも一緒に行行動)、成獣が2頭でした。亞成獣の3頭は一ぐるくクマに蜘蛛の子を散らす様に逃げました。

# 2017 高原沼情報

NO. 1

第4号（8月9日）  
発行：ヒグマ情報センター

## 沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00～13:00、下山時間15:00までです。  
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。  
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



現在、沼巡りは  
高原沼往復です



②緑沼です。緑岳から続く、白雲岳、高根ヶ原の稜線が望めます。沼の中のヌマハリイも開花しました。(8月8日)



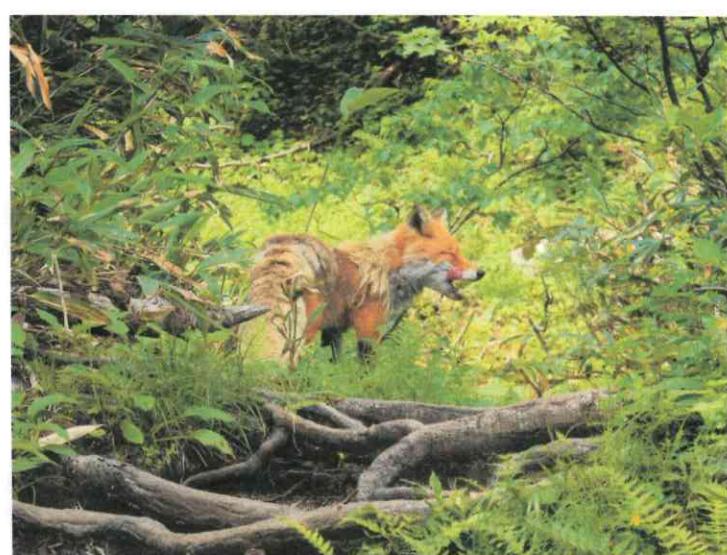
①8月に入ってもヒグマの数は増えません。唯一、識別できている親子もオスグマの進入で姿を消しました。写真の親子は早朝、夕方には観察されているものの、日中はほとんど姿を現しません。(8月8日)



③土俵沼のモウセンゴケは満開です。食虫植物というイメージとはほど遠い、可憐な白い花を咲かせます。(8月8日)



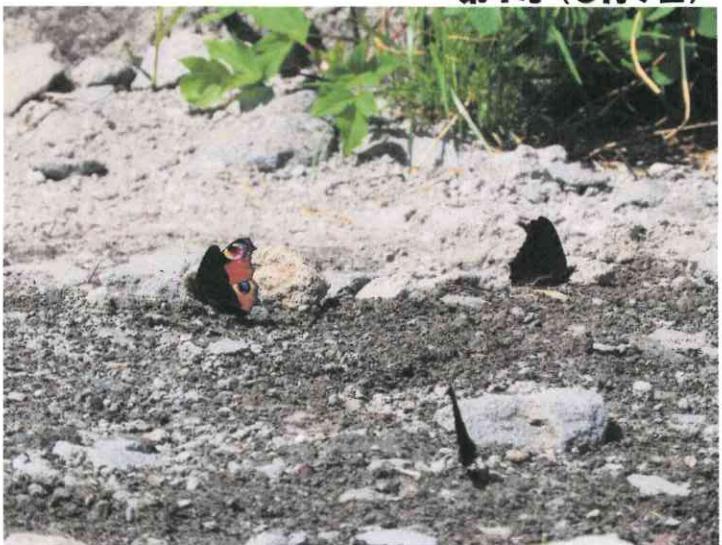
④ルリイトンボの交尾はハート型です。オスが尾でメスの首をつかんで捕らえ、メスの尾がオスに向かって交尾が成立します。(8月7日)



⑤あくびをしているキタキツネ、のどかな姿ですが人と遭遇してしまい緊張している証拠です。クマもあくびでは無いですが、ストレスを感じると狸寝入りのような、ふて寝のような行動をします。(8月4日)



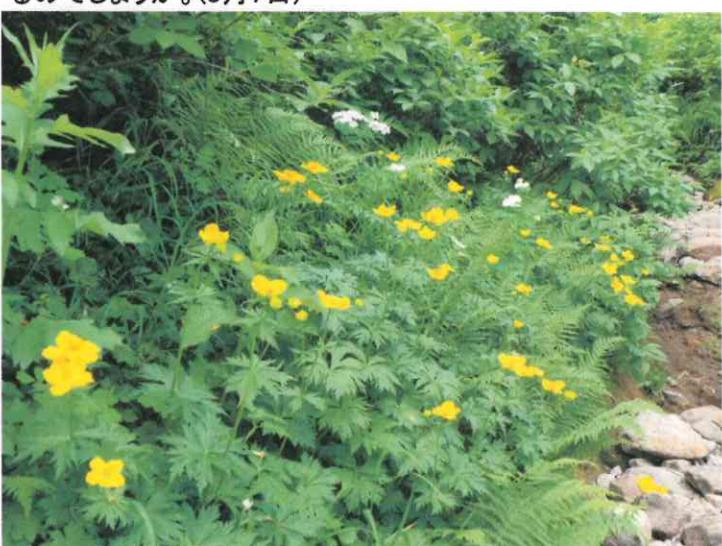
⑥緑沼周辺の雪田地ではミヤマリンドウが咲いています。青い花の先駆けとなり、晩夏に入ったと感じられます。樹林帯ではツルリンドウも咲いています。(8月8日)



⑦大学沼ではクジャクチョウやコヒオドシが雪解け水のしみた地面を数時間に渡って、なめていました。暑い日でしたが、水分補給でしょうか、それとも何か栄養になるものがあるのでしょうか。(8月7日)



⑧豊富な湧き水が沢になり、湯の沼に注いでいます。そこにはオショロコマが生息しています。しかし、昨年の台風の影響なのか、魚の数が少なくなったように感じます。(8月4日)



⑨歩道をチシマノキンバイソウの大粒の花が飾っています。ハクサンボウフウも混ざっています。高根東斜面でクマは黄色い花の中から白い花を選んで食べています。(8月7日)



⑩マヒワのメスです。マヒワは高原温泉のような、標高の高い針葉樹林で繁殖をします。最近は鳥の声も少なくなっていました。高原温泉ではホシガラスがギャーギャーわめいています。(7月28日)



⑪ヒグマが見られる確率が低い中、ヒグマを見に来たドイツの人が幸運にも観察できました。ヒグマの最盛期でもある今ですが、今年は強運の持ち主しか見られないという状態が続いている。(8月3日)

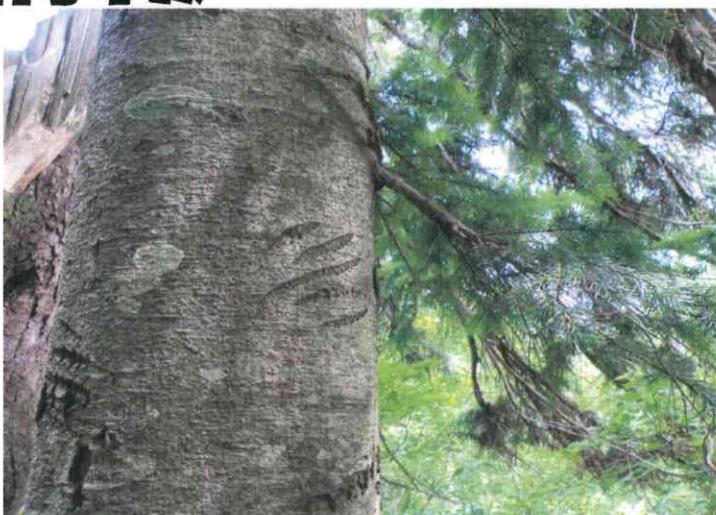
# 2017 高原沼情報

NO. 1  
第3号（7月26日）  
発行：ヒグマ情報センター

## 沼巡りコースの入山規制について

入山受付 7:00～13:00、下山時間 15:00までです。  
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで **入山届け** を記入し、**レクチャー** を受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①登山口からすぐのトドマツの幹に古いものですが、ヒグマの爪痕があります。これからヒグマの住む山に入るという象徴的な印です。現在、沼コースは緑沼経由、高原沼の往復になっています。(7月25日)



②土俵沼から緑沼周辺ではエゾコザクラが見頃になりました。たくさんのエゾシロチョウが、我先にと蜜を求め飛び回っていました。他のチョウチョも見られます。(7月20日)



③上川中学校の野外授業が沼コースで行われました。クマを見たい生徒達でしたが見ることは出来ませんでした。クマを知るには文献や映像より、自分の目でクマを見ることです。ここはそういう場所です。また来てください。(7月20日)



④歩道に鳥の羽が散らばっていました。おそらくキジバトのものと思われます。猛禽類の仕業と思われます。何気ない森の中で熾烈な生存競争が繰り広げられています。(7月20日)



⑤黄色の花が目立ってきました。ミヤマキンポウゲが歩道脇をにぎわし、ところどころに写真のミヤマキンバイ、オオバミゾホオズキが見られます。チシマノキンバイソウも咲き始めました。(7月25日)



⑥鴨沼手前から式部沼にかけてタニマスミレが咲いています。全国からこのスミレを見に来る人がいます。大学沼ではまだ咲いていませんが、間もなく咲くでしょう。このチャンスを逃さないように!!(6月25日)



⑧大学沼に落ちた岩でアオダイショウが日なたぼっこです。三笠新道ではヒグマが見られるのですが、大学側の斜面では今の所、クマが見られません。一説にはクマはヘビが嫌いということもあり、こいつのせいでしょうか?(7月21日)



⑩センサーcameraに撮影されたクマです。時刻は午前3時52分です。24日には入山者が鴨沼近くでクマと3mの距離で遭遇しました。クマは昼夜問わず、行動していますので見通しのきかない所では注意してください。(7月20日)



⑦北海道の形をしたエゾ沼の水もだいぶ引きましたが、まだ長靴の方が安心して歩けます。水に浸かった歩道は地盤がもろいので注意して通行してください。日本一遅いサクラが今日、エゾ沼で開花しました。(7月25日)



⑨早朝の駐車場からの観察で珍しいクマを見ました。大きな雄グマで体の半分近くが白で、初めは牛のようだと感じました。長生きしているそうで、今まで誰にも見られなかったのでしょうか。とにかくこんなクマは初めて見ました。(7月26日)



⑪高原沼の看板が雪の下から現れ、休憩スペースも広がって来ています。縁岳随一の山容を望めます。ただし、落石には注意してください。これから、大きなものが落ちてくる可能性があります。(7月26日)

# 2017 高原沼情報

NO. 1  
第2号（7月13日）  
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について  
入山受付7:00～13:00、下山時間15:00までです。  
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。  
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



②畔のミズバショウも初々しい滝見沼です。沼の名前の由来になった滝の音も聞こえてきました。滝は松の陰にあります。緑沼までの森の中は立ち止まらないほどのヤブ蚊が大量発生しています。(7月12日)



④ミネカエデやオガラバナの木にある巣、その正体はイタヤハマキチヨッキリというオトシブミの仲間のものです。5～10枚の葉を巻きつけ、中に10個前後の卵を産みます。これが幼虫の巣となりエサとなります。(7月10日)



①ハヤブサの雄姿です。飛翔する姿はたまに見ますが、こんなに近くで見るのは珍しいです。足の鮮やかな黄色は見事です。(7月5日)



③緑沼周辺ではエゾコザクラが咲き始めました。コースでは数少ないピンクの花です。もう間もなく、小さな群落ですが満開になるでしょう。(7月10日)



⑤駐車場からも見えます。高原温泉北側の斜面で6月29日から度々見られている親子3頭です。子供は1歳で金毛と黒毛です。親と子にとって、一緒に過ごす最後の夏になります。(7月12日)



⑥「グリッグの冒険」を知っていますか?シマリスのグリッグが目指した世界は大雪山にもあります。しっぽを立てて雪の上を走ったり、去年のナナカマドの実を食べる姿が観察できます。(7月8日)



⑧

⑧⑨見た事も無い大増水です。⑧はエゾ沼への登り道です。エゾ沼から溢れ出した水が歩道を沢にしています。水量も多く、スノウブリッヂもまだ残っています。⑨はエゾ沼です。木道の延長線上に歩道がありますが膝上くらいまでの深さで水没しています。水に浮いていた2本目の木道も待避させました。こんな事は初めてです。暑さが続き、雪解けはどんどん進んでいます。まだまだエゾ沼より上には残雪が多く、今後の予報も見るとしばらくこの状態が続きそうです。(7月12日)



⑩

⑩⑪7月12日から三笠新道が通行止めになりました。⑩の親子が7月10日は三笠新道入り口上方の斜面で、11日は三笠新道中央部上方の斜面で採食しているのを確認しました。11日には別の親子⑪が高原沼上方の斜面を高根ヶ原に登っていくのも目撃されています。人前に出れば危険にさらされるヒグマたちが夏の間、静かな暮らしが出来る場所です。その暮らしぶりをそつとのぞくことが出来る大雪高原沼は素晴らしいところです。(7月10日、11日)



⑦高原温泉展望台からの景色です。ここでしか見られない花、ダイセツヒナオトギリも見られます。花は過ぎたもの、見頃のもの、蕾のものもあり、息の長い花です。⑤の斜面も間近です。(7月8日)



⑨



⑪